

シエナ (Siena)

ついにシエナに行って来ました。今まで、シエナに行ってきた人で、この街を褒めなかった人は一人もいません。初めての訪問でしたので、期待に胸を膨らませて行ってきましたが、その期待を裏切ることはありませんでした。やはり、良いところは人気がありますね。

シエナには、小雨が降り、5月中旬とは思えないほど寒い土曜日の夕方に到着しましたが、それでも、観光客があふれていました。多少の寒さは苦にもならず、ホテルにチェック・インして直ぐに街に繰り出しました。まず、小雨の中を歩き、世界一美しいと言われるカンポ広場に出ました。さすがです。一目見て唖るしかありませんでした。扇型の要の位置が一番低くそこには美しいプブリコ宮殿とマンジャの塔がそびえています。要から9つの方向に放射線状に上り勾配が広場の外周路に繋がっています。これ以上の説明は無理です。要するに、世界一の広場と言われるだけのことはあります。でも、個人的には、ダ・ヴィンチが設計したヴィジェーヴァノのドゥカーレ広場の方が好きですので、世界で2番目です。そうすると、ミラノのドゥオモ広場が世界で3番になります。



次の日は、雨もやんでくれて晴れ間も出てくれました。ホテルの朝食を済ませると早速街に繰り出しました。昨日、予約したカンポ広場近くのスローフード・レストランで昼食をとることにしていたので、その時間までにカンポ広場に着くように街歩きをしました。まず、ホテルに近いサン・ドメニコ教会に向かいました。15世紀中旬に建てられたこの教会の中に、シエナの聖人である聖カテリーナの礼拝堂があります。この教会とシエナのドゥオモ大聖堂との間には谷があり、谷の斜面に建つこの教会から谷の反対側の丘の上に建つドゥオモとシエナの街並みがとても美しく見えます。この教会はシエナの街を見るベスト・ポイントかも知れません。



さて、聖カテリナはシエナの聖人ですが、同時にイタリアの第一聖人（第二聖人はアッシジの聖フランチェスコ）でもあります。14世紀中旬に聖カテリナは18歳の時に純潔をキリストにささげる決心をして修道院に入り、その後、キリストと同じ33歳で亡くなるまで、祈りや瞑想と弱者を救済することに全てを捧げた人です。この聖カテリナの生家が、サン・ドメニコ教会から谷を降りていったところにあります。何の変哲もない門をくぐりボルチコの広場を通り過ぎるとその奥に礼拝堂と教会があります。教会には正面に磔のキリストの像がありますが、右側にあるキリストから祝福を受けている聖カテリナの絵がとっても印象的でした。教会と反対側にあるのが“台所の礼拝堂”と呼ばれているもので、ここは、教会よりも素晴らしいところです。全面の壁は16,7世紀のシエナ派の画家による聖カテリナを描いた油彩画で飾られていて、床はマヨルカ焼のタイルで覆われています。この元は台所であった礼拝堂は一見の価値があります。



聖カテリナの生家から更に谷を降りて、谷底からまたシエナの街のある丘を登っていくと、シエナの街の旧市街に入ります。見晴らしが良く、反対側の丘の上のサン・ドメニコ教会が見える通りを進むとドゥオモの裏にあるドゥオモの礼拝堂の前に出ます。その脇には映画の舞台にでもなりそうな急な階段があり、そこを登り、ドゥオモ拡張計画で造られたアーチの門をくぐるとドゥオモ広場です。



ドゥオモ広場のチケット売り場で、ドゥオモの礼拝堂、クリプトと併設されている博物館及びサンタ・マリア・デッラ・スカラ（教会と美術館）の共通券（12ユーロ）を購入すると、本格的なシエナ観光の始まりです。日曜日は、ドゥオモ内部は、ミサのために午後1時半まで入れませんでした。が、その他の施設も見所がたっぷりです。シエナ派の絵画、壁に描かれたフレスコ画、彫刻、宗教関連の絵画や聖具等、これでもかと言うくらいの展示物です。一番印象に残ったのは、ドゥオモ博物館の中から行くことが出来るドゥオモ広場の入口にある壁の一番上まで登れたことです。このドゥオモ博物館と入口の壁は、フィレンツェのドゥオモが完成したことに対抗して（シエナはフィレンツェとライバル関係にあり、シエナが敗れるまで長い間戦いが続いていました）、シエナのドゥオモを拡張しようとしたときの遺物なのです。この拡張計画は、残念ながら、疫病や飢饉及び資金難で途中で中断してしまったそうです。この計画の遺物である壁の一番上まで登ると、ドゥオモはもちろんのこと、カンポ広場を初めとするシエナの市街地を一望の下に見ることが出来ます。また、先ほど行った向こう側の丘のサン・ドメニコ教会も、その先の緑豊かなトスカーナ地方の丘と葡萄園が目飛び込んできます。昨日と違って、晴れ間が覗いていたこの日は、雨でぬれた緑に太陽の光があたり更に輝いていました。一番高いところに登る階段は、狭い上にちょっとわかり難い所にありますので見逃さないようにしてください。戻るときに出会った外国人観光客の人全員にここに登ることを勧めてきました。ここはマンジャの塔ほど有名ではありませんが、ここからの眺めは圧巻です。美しいマンジャの塔も正面に良く見えます。マンジャの塔に登ってもマンジャの塔は見る事が出来ませんからね。



ドゥオモの内部は、食後の楽しみにして、カンポ広場を通りスローフード・レストランで昼食です。ここでは、豪華なアンチ・パスタ盛り合わせにトスカーナ地方の赤ワイン、そして、まさにB級グルメと言うのに相応しい名物の焼うどんのようなパスタと牛筋の煮込みを戴きました。この味は、日本人にぴったりで、最高でした。また、忘れられない味に出会いました。B級グルメ万歳です。食後は、カンポ広場に戻り、プブリコ宮殿の美術館へ。しかし、質量ともドゥオモ博物館やサンタ・マリア・デッラ・スカラには負けています。また、先ほど、ドゥオモの壁に登ったので、マンジャの塔に登るのもやめて、ジェラートを食べながら土産店を冷やかしながらカンポ広場と旧市街を散策しました。シエナにはもう一つ国立絵画館がありますが、もう、頭の中はいっぱい、これ以上は入らないので今回はパスです。



最後に、ドゥオモに戻り、ドゥオモの中を見てきました。シエナのドゥオモは一言で言うとミラノのドゥオモを小型にしたようなものです。しかし、単純に小さくしてわけではなく、小さくした分だけ、ミラノのドゥオモよりも繊細な造りと装飾になっています。特に、素晴らしいのは、床の装飾です。ここも一見の価値があります。



シエナの街では、セリア A の最終週とのことで、サッカー中継に熱中している人が数多くいました。この日は、優勝目前のミラノのインテルがここシエナで試合をしていましたので、盛り上がりも半端ではありません。実は、インテルのメンバーが我々と同じホテルに宿泊していたために、昨日、ホテルはインテルのファンで取り囲まれてホテルに入るのも大変だったのです。ちょうど、ホテルではバ

スから降りてくるインテルのメンバーとも鉢合わせになり、エトー等の有名選手の顔も見ることが出来ました。これも、旅の思い出の一つです。



これで、初めてのシエナの観光は終わりです。さすがに、誰もが素晴らしいと言うシエナです。観光も食事也大満足の1日でした。全てが素晴らしいシエナですが、特にお勧めは、やはりドゥオモ博物館です。ガイドブックにはそれほどのことが書いていなかったのですが、ぜひ、ここが一番上まで登ってください。シエナの思い出になると思います。

サン・ジミニャーノからシエナまでは、ポッジボンシ経由のバスを使用しました。例によってポッジボンシでバスを乗り換えます。乗り継ぎは30分ほどで、ポッジボンシからシエナまでは45分です。料金はサン・ジミニャーノから通しで5.5ユーロでした。

シエナからフィレンツェまでの戻りもバスを使用しました。ホテルがバスの停留所の前だったので、そのほうが楽だったからです。チケットはバス停の近くのタバッキで購入しました。このバスは、また、ポッジボンシ経由だったので、ポッジボンシを経由しない直通バスよりも所要時間が長く1時間半かかります。但し、料金は7.1ユーロで直通バスよりは安くなっています。このバスはポッジボンシでバスを乗り換える必要はありません。そのまま乗っていればフィレンツェのサンタ・マリア・ノヴェーラ駅まで連れて行ってくれます。

今回は、往復とも、このバスに乗ったことになりましたが、バスからはトスカーナの田舎の景色がとてもきれいです。途中の丘の上には、大きなお城やサン・ジミニャーノに負けないくらいの城壁に囲まれた街や村も見えます。まだまだ、観光開発の済んでいない第二、第三のサン・ジミニャーノやお城が、出番を控えて待っているかのようです。それに、ピエモンテほどではないにしても、一面の葡萄園と丘の中にぽつんとある針杉で囲まれた小さな農家、羊や馬の放牧は、イタリアの田園地帯の雰囲気をつぶりと味わうことが出来ます。

フィレンツェでは、予約したユーロスターまで1時間半の時間があつたので、街をぶらぶらしました。花の都フィレンツェで1時間半の時間をつぶすのは簡単です。